

ワカメの相談事例 ～ワカメが黄色く変色～

福岡市鮮魚市場内の仲卸業者から、「ワカメに黄色く変色した部分があるが、原因は何か。また、食べても害はないか。」との相談が寄せられました。調査の結果、ワカメの変色部分は寄生虫（ソコミジンコ類）の1種が寄生した痕であると考えられました。今回は、この相談事例について紹介します。

調査の結果

相談品のワカメの表面には直径 0.5cm 前後の斑点状に黄色く変色した部分が多数あり（写真①）、拡大すると、針でつついたような小さな穴を認めました（写真②）。また、相談品のワカメを洗浄して得られた沈殿物を顕微鏡で観察したところ、長さ1mm程度の小さな生物（写真③）を発見しました。

この生物について、水族寄生虫の研究をされている広島大学の長澤教授におたずねしたところ、ソコミジンコ目 *Harpacticoida*（ソコミジンコ類とも呼ばれる）のタレストリス科 *Thalestridae* に属する1種であることが分かり、相談品のワカメの変色部分は、この生物の寄生痕であると考えられました。

ワカメの害虫となるソコミジンコ類

ソコミジンコ類は、小型甲殻類であるカイアシ類の1種で、体の大きさは小さく、0.2～2.5mm程度です。体形は、円筒形や紡錘形、腰を曲げたエビ形など様々であり、生息場所も、水底の砂泥の中で生活するものや水中を浮遊するもの、海藻の葉上で生活するものなど多種多様です。

ソコミジンコ類のなかには、ワカメの害虫として知られているものもあります。ソコミジンコ目タレストリス科の1種、*Amenophia orientalis* は、ワカメの葉状部に小さな穴を掘り、その中で生活します。多くの穴をあけられたワカメは商品価値が著しく落ちてしまうため、寄生による被害は養殖業者にとって深刻な問題です。被害を防止する方法として、早期にワカメへの寄生を発見し、被害が拡大する前に刈り取るなどの取り組みが行われています。



↑ 写真① 相談品のワカメ



↑ 写真② 変色部分を拡大



↑ 写真③ 相談品のワカメから見つかった小さな生物（腹面の写真）

ソコミジンコ類が寄生したワカメを食べても健康被害は発生しませんが、寄生痕が多数発生している場合は、見栄えが悪く、苦情の原因となる可能性があります。